

## 住化・住武相談室だより

第5号 5月10日

発行 住友化学・住化武田農薬

お客様相談室 0120-677-088

発行責任者 古津 昇

### 目次

JAS制度と特別栽培農産物(その3)……	P.1,2
IPMの現状と今後(シリーズ③) ……	P.3
雑草よもやま話(5) ……	P.4
住友化学アグログループ会社紹介	
＜レインボー薬品(株)＞ ……	P.5
市場情報NO.3「ズッキーニ」 ……	P.6
農薬あれこれなぜなにコーナ……	P.7
今月の推進農薬	
「土壌害虫とその防除剤について」 ……	P.8,9
今月の相談内容から ……	P.9,10
知って得する防除の仕方 ……	P.8
誰にでもできる楽しい野菜づくり…	P.10,11
病虫害発生情報 ……	P.11
登録情報 ……	P.12
コラム・そば談義 ……	P.13
編集後記 ……	P.13



## JAS制度と特別栽培農産物(その3)

### 国内での有機農業取り組み動向

#### 生産・加工・流通現場の実情と課題

日本の有機農業は、提携運動を基本とした信頼関係によって展開してきました。

そのため、初期の発展段階において基準や認証制度などは必要ありませんでした。また、有機農業の発展において中心的な役割を果たしてきた多くの団体も、基準・認証制度の導入には反対してきた経緯があります。農政においてさえ、有機農業が正当に位置付けられてきませんでした。

そのようなことから、有機食品の表示規制は欧米のように有機農産物の表示規制法・生産法としてではなく、食品一般の表

示規制法であるJAS法を改正して導入されました。

これら一連の動きは、国際規格が採択されたことを受けて行われてきたのであり、コーデックスのガイドラインとの整合性を最優先してきた結果です。以上のように、日本の有機JAS法は生産現場と実情があわず、有機農業振興策も伴わない表示偏重制度になりました。

また、表示規制の導入に際して、生産現場では大きな混乱が生じました。例えば、JAS規格が告示されてから、表示を施行

するまでの期間が1年3ヶ月と、JAS規格の内容を確認して適応に移す期間としては非常に短く、そのことが果樹栽培で、「ボルドー液」と共にIFOAM基礎基準で認められてきた「石灰硫黄合剤」が使用可能農薬から外されてしまったことです。今まで「石灰硫黄合剤」を使用して民間の認証機関から認証を受けていた農家は、有機J

### 検査・認証費用の負担

検査認証制度の導入は有機栽培農家の経済的・事務的負担を増大させました。それを農産物価格に転嫁し、回収することは現実的に厳しく、そうすると生産者側で吸収するしかなく、その負担は小規模農家ほど大きくなります。認証のための検査を受けるためには、膨大で煩雑な書類を準備したりする必要があり、日常業務では栽培記録などの記帳が要求されています。これは規模が小さい上に少量多品目生産を基本とする日本の有機栽培農家においては非常に負担が大きく、ことに高齢化が急速に進行している中山間地では、地道に農薬や化学肥料に頼らない農業を続け、それを直売所で販売している生産者がいるにも拘らず、認証申請を行うことは前述の点で難しいと思います。また、書類作成を支援する体制も整備されていないのが現実です。農協や普及センター、試験場など現時点でこれに対応できる農業指導機関はどれぐらいあるのでしょうか。

事務的な手続きに加え認証料の負担も大きく、それに対し国などの負担策がありません。また、一時的に「付加価値商品」として有機農産物を扱うのなら、価格に転嫁出来ますが、それを永続的に販売していく

AS認定が受けられなくなり大きな痛みを負うことになりました。

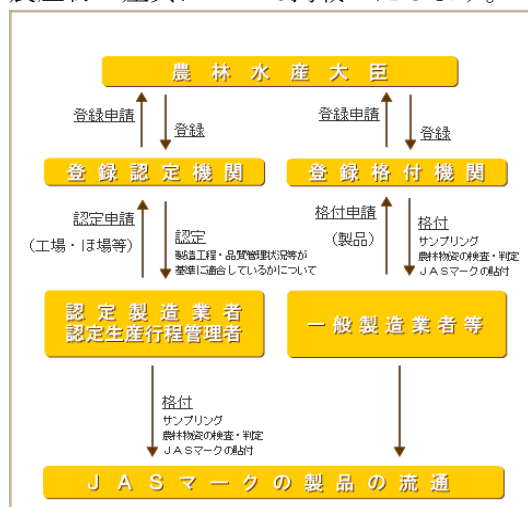
これとは対照的に欧米では、生産者自身の自己防衛策として基準・認証制度に関わってきたので、公的な基準・認証制度の導入に際しても生産者が積極的に関わり、現状に即したものにすることが出来ました。

には限界があります。本来、有機農業が目指しているのは、適正価格で恒常的に安定供給することであり経営的にも持続可能な農業であります。

現実場面で認証に関わる記帳事務・承認経費等は、栽培規模が大きく栽培品目が少ないほどスケールメリットが大きくなります。しかし、有機農業の基本は、農業生態系の多様性を高め、複雑系における均衡を保つことで有害生物の異常発生や異常気象によるリスクを回避することにあります。従って、有機農業の基本的な考えに沿って農業経営をしている小規模有機栽培農家ほど、スケールメリットは小さくなり、これらの負担を生産者側の努力によって軽減することは非常に困難な状況といえるでしょう。(F・N)

<恵泉女学園大学澤登様セミナー要約から>

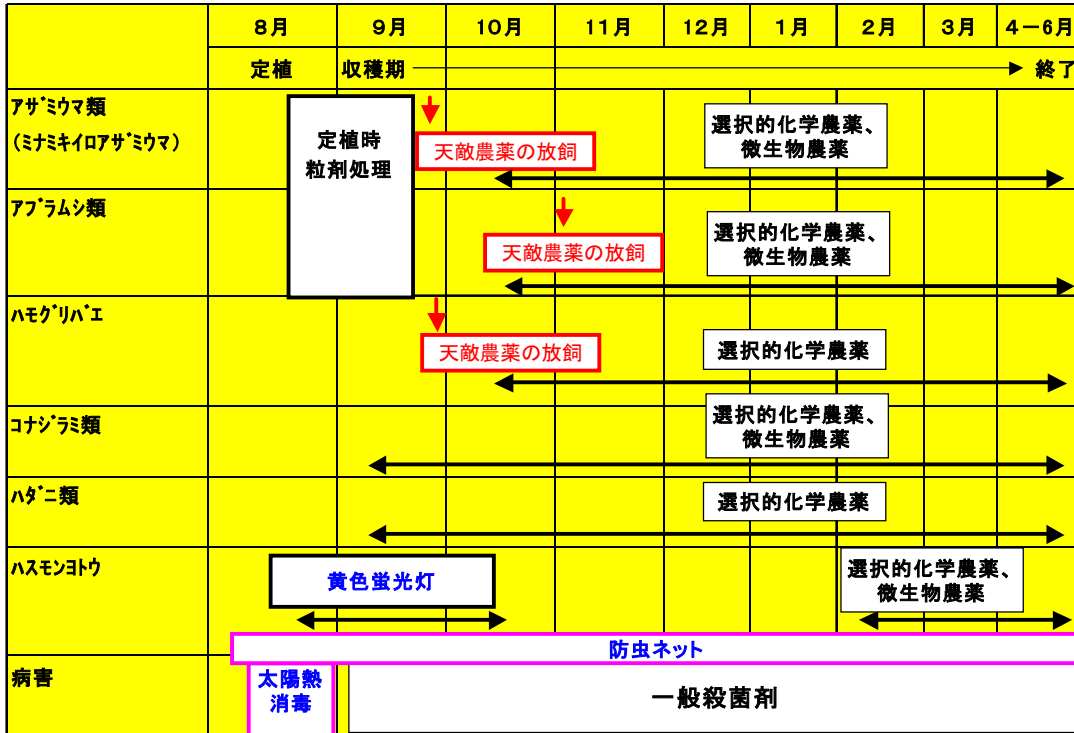
次回、最終回としてJAS制度と特別栽培農産物の差異について掲載いたします。



**IPMの現状と今後 (シリーズ③)**

**IPMの実例**

【施設果菜類のIPMに天敵農薬を利用する事例－高知県の事例】



図は高知県（安芸地区）で実際に普及している施設果菜類（ナスとピーマン）でのIPMによる防除体系を示したものです。これには耕種的防除法（太陽熱消毒）と物理的防除法（黄色蛍光灯、防虫ネット）、生物的防除法（天敵農薬や微生物農薬）、化学的防除法（粒剤処理や選択的な殺虫剤と殺菌剤の散布）が相互に矛盾なく利用されています。最初に天敵利用が試みられてから5年以上が経過しましたが、今では地区のナス農家の50%以上、ピーマンでは100%の農家がこの体系に準じたIPMを実施する状況になったそうです。

高知の事例からわかることは、年間発生回数が多く、そのため抵抗性もつきやすい、いわゆる難防除害虫に天敵が利用されていることです。特にミナミキイロアザミウマ

は、西日本のナスやピーマンの最大の害虫で、これを薬剤だけで防除する方法は、時期によっては毎週のように散布しなければならず、また短期間で抵抗性が発達するため、次々と新しい薬が必要となり、そもそも効率の良い防除方法とはいえない状況でした。これに対し、天敵（主にタイリクヒメハナカメムシなど）を放飼し、天敵が増えてくるまでは選択的な化学農薬や微生物農薬を散布するという方法は、その効果も化学農薬の散布と比べて遜色なく、また省力性という意味では格段に良かったので、急速に普及が進みました（もちろん、まったく新しい試みですので、その普及にあたっては県の技術者の方を始め、多くの方々の熱心な努力があったと思います）。

## 雑草よもやま話(5)

外国から侵入し、日本において定着・生活できるようになった植物を「帰化植物」と呼びます。

一般的には、明治維新前後からのものを帰化植物とし、ヒエやホタルイなどのように作物の伝来に伴って有史以前に帰化した植物を「史前帰化植物」と呼んでいます。

帰化植物が雑草化したものが帰化雑草で、最近特に発生が増えています。

榎本先生の報告では、二十世紀になって渡来し畑雑草化した主なものにセイヨウタンポポ、ハルジオン、セイタカアワダチソウ等があり、水田雑草としてはキシユウスズメノヒエ、アメリカセンダングサ、アメリカアゼナ、ハイコヌカグサ、ホソバヒメミソハギ等があります。水田に定着・発生する新しい帰化雑草は過去30年ほどの間に起きたことで、史前帰化植物が主体であった日本の稲作での雑草の草種の変化として極めて特徴的なこと（清水）とされています。

では、これら外来の雑草はどのような経路で日本に入ってきたのでしょうか。929年に渡来した畑雑草のイチビは繊維作物として、またキシユウスズメノヒエは飼料作物

として栽培されたとの説があります。最近では、観賞用に導入した植物や、熱帯魚の水槽に入れるための外国産水草が逃げ出して雑草化した例も見られております。しかし利用目的で導入した植物が逃げ出し、雑草化した例は余り多くはありません。

家畜の飼料用に大量に輸入されている乾

草や、トウモロコシ、ソルガム、大麦、綿実、ダイズなど輸入穀物に、種々の植物の生存種子が多量に混入していることが判明したことから、帰化雑草の急激な増加は農産物輸入の急増が最大の原因と考えられています（清水）。家畜の糞に入った種子は、堆肥にして醗酵させればほとんどが死滅

しますが、未熟のまま圃場に投棄されれば、生きた種子をばら撒いていることとなります。

昨年6月に特定外来生物被害防止に関する法律（外来生物法）が公布され、外国から生物を導入することが難しくなりましたが、既に導入された植物を栽培している場合にも、それが逃げ出してわが国の生態系に悪影響を及ぼさないように注意しなければなりません。



(I・K)

群馬大学社会情報学部 青木繁伸様より（ハルジオンの写真）提供をうけました。



## 化学アグログループ会社紹介

# レインボー薬品株式会社

レインボー薬品株式会社の歴史は、昭和35年、日本初の園芸用エアゾール式殺虫剤「バラギク殺虫剤」の製造販売を開始したことに始まります。

昭和41年に(株)東和商会として会社が設立され、その4年後「レインボー薬品株式会社」と社名を改めました。

昭和45年には日本で初めて植物のビタミン剤「レインボーフラワー液」を発売し、今日まで多くの方々に知られ、ご愛顧いただいております。

平成14年より住友化学グループの一員となり、主にホームセンターを中心に、除草剤「ネコソギエースA粒剤」をはじめとする家庭園芸向け商材を販売しております。

これからも

1. 「社会に貢献すること」、
  2. 「人間の心の豊かさを求める願望を満たすこと」、
  3. 「愛好家のみなさまが楽しく豊かな夢を実現できる製品を創造し提供すること」
- を経営理念とし、歩んで参ります。



### ネコソギA粒剤

新成分配合で、効目がさらに早くなりました！



### シバキープ(日本芝専用液体除草剤)

1000ml (約1.5~3坪) ・ 2L (約1.5~3坪)

日本芝の中に生える雑草に散布するだけで、葉から吸収されて根部分まで枯らす日本芝専用除草剤です。薄めずにそのまま使える便利なシャワータイプ。スポット除草に最適です。



### 市場情報 NO.3

## 『ズッキーニ』

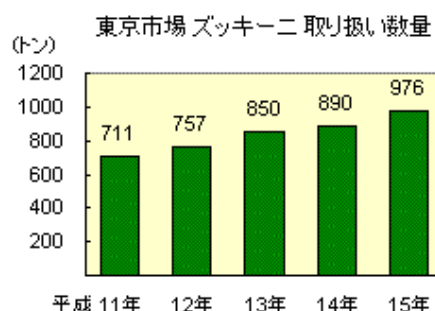
日本エコアグロ(株)  
農産商品部 大家 修

#### § 将来性のある農産物 §

野菜売場で初めて「ズッキーニ」を見て、太いキュウリかと思ってしまう人が多いようですが、実はカボチャの仲間です。

原産地は北アメリカで戦後に日本にも導入された野菜です。ツルが殆ど伸びない矮性の作物で、開花数日後の幼果（長さ20cm位）を収穫します。

平成15年東京都卸売市場のズッキーニ取扱数量は約1,000トンで、その後も着実に伸びています。現在、長野県が栽培面積、生産量のいずれも全国第一位で、40%を占めており、出荷は早いところで5月上旬から始まり、7～9月がその最盛期となり11月上旬まで続きます。



#### § 料理し易く、低カロリーの食材です §

欧米の中でもイタリア、南フランスの地中海地方を中心に盛んに栽培され、利用されています。

例えば、イタリア料理のラタトゥユ（野菜煮込み）の食材として馴染みですし、味にくせがなく油との相性が良いことから、ソテー、揚げ物など、いろんな料理に使われています。また加熱すると独特の舌触りと食感が楽しめ、品種も緑色系だけでなく（写真にあるように）黄色系もあるので料理に彩りを添える野菜としても使えます。

#### § 上手な選び方と保存方法 §

切り口が新しく、皮にツヤのあるもの、太さが均一でありあまり大き過ぎないものを選びましょう。

また、古くなると実の中身がスカスカになってくるので、なるべく早く食べることを、お勧めします。冷蔵庫の野菜室に保存するのが一般的ですが、屋内の場合、ラップや新聞紙などで包んで涼しく、風通しのよい場所で保存します。





## 除草剤の疑問 あれこれ!!

### ご質問

除草剤についてちょっと分からないので教えてください。

- ① 草がボウボウに生えてしまっても効くのでしょうか？  
薬を使うタイミングが知りたいのですが。
- ② ①に関連して、除草剤はどのように効くのですか？生やさないの？  
枯らすの？
- ③ 商品ラベルを見ると、適用地帯という文字が見えます。例えば関東以西というのは、どこからどこまでを指すの？
- ④ 商品によっては、水で薄める商品であっても希釈倍数が書かれていないものがあります。フロアブル剤は水に薄めて使用すると聞きましたが、使用量しか書いていないものがあります。どのように薄めれば良いのでしょうか？
- ⑤ 雑草の見分けが難しいです。見分け方をどこへ相談すれば良いのでしょうか？

### お答え

①と②について

除草剤には色々なタイプがあり、一概にはお答えできません。

そのタイプを簡単に説明しますと、以下のように分類されます。

使用場所：水田、畑、果樹園、樹木など

使用目的：生えている雑草を枯らす。新たに生えてくる雑草を抑える。

以上のように、場所や目的に応じた除草剤を選ぶことができますので、購入される際にご相談ください。

- ③ 関東以西とは、北海道・東北・北陸を除く地域になります。すなわち関東7県と長野・山梨・東海・近畿・中四国・九州となります。
- ④ 殺虫剤や殺菌剤のフロアブル剤は、水で薄めて使用しますが、除草剤で特に水田除草のフロアブル剤は、ボトルのまま原液を水田に撒くもので、使用者が田の中に入らずに畦畔周りから撒けるなどの特長があります。  
最近では田植機に取り付けて、田植と同時に撒けるなど、ますます農家の皆様が楽に使用できるように、工夫されております。
- ⑤ 農薬を購入される所にまず雑草の現物を持って相談されるのがいいと思われます。

(S・H、I・T)

## 今月の推進農薬

# 土壌害虫とその防除剤について

## 【フォース粒剤・パダン粒剤・ジメトエート粒剤】

土壌害虫の防除は大変厄介である。

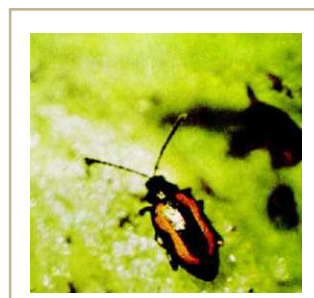
目に見えない土壌中に潜み、加害し、著しく商品価値を落としてしまう。

今月は土壌害虫の活動期に当たるため、主な害虫と薬剤を紹介します。

### キスジノミハムシ

成虫は黄色い筋を持ち、跳ねるのでその名前の由来になっています。

4月下旬～5月に現れ、茎葉の地際部や根の近くに卵を産み付ける。成虫の寿命も産卵期間も長いことから残効性の長い薬剤が効果的です。例えば、「フォース粒剤」は、播種時に全面又は播溝土壌混和処理をします。残効性が長いのが特長で処理時の幼虫だけでなく、その後にふ化した幼虫も防除し、更に飛来成虫への忌避効果があります。幼虫に対し、接触効果と土壌中のガス効果もあります。また、「ボルテージ粒剤」は手撒きのできる殺線虫剤で、キスジノミハムシにも有効で、播溝処理土壌混和で効果を発揮します。ネグサレセンチュウの防除方法は全面散布土壌混和です。その他剤に「パダン粒剤4」「オンコル粒剤」「ダイアジノン粒剤5」等があります。



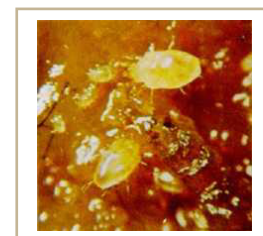
### ネダニ

年間を通じて生息していますが、春～初夏と秋に発生が多く、この時期の被害が甚大です。

また、餌不足等で環境条件が悪化すると移動若虫が現れ休眠状態になります。「ボルテージ乳剤」は、ねぎ・にら等のネダニに対し定植前に苗浸漬処理で長期間効果を発揮します。

「ボルテージ粒剤」は、植付時に植溝処理で効果を発揮します。

これ以外に「ジメトエート粒剤」「エチルチオメトン粒剤」「D-D」等があります。



### コガネムシ類幼虫

発生時期は6月上旬～下旬に成虫が葉を食害し、7月に産卵を開始します。3令幼虫が現れる頃に被害が急増します。家畜糞類・青刈植物・未熟有機物の多用は成虫を誘引します。

「ブイハンターフロアブル」を、さつまいもの植付前に作条散布後土壌混和しますと、有効成分が土壌中の有機物に吸着します。この有機物を幼虫が食べることにより長期間防除効果を発揮します。有機JAS法でも使用できるBT剤です。これ以外に「フォース粒剤」「ダイアジノン粒剤5」「オンコル粒剤」「バイジット粒剤」等があります。



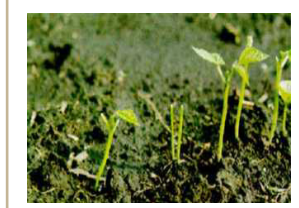


**ネキリムシ**

ネキリムシはカブラヤガ・タマナヤガの幼虫です。若令は植物体上にいますが中令以降昼間は土壤中に潜み夜間地上部にて食害します。多発すると昼間も加害が見られます。

「ダイアジノン粒剤5」はキャベツ・はくさい・いも類・果菜類等の多くの作物に登録を有する薬剤で、ケラ・コガネムシ類幼虫にも効果のある薬剤です。これ以外に「フォース粒剤」「ネキリトン粒剤」「デナポンベイト」等があります。

(NT)

**今月の相談内容から**

## ブイハンターフロアブルはJAS法 に適用していますか？

**ご質問内容**

サツマイモを植付ける予定ですが、昨年コガネムシ類幼虫の被害が多かったので「ブイハンターフロアブル」を使用したいが、使い方、特長、JAS法等について教えてほしい。

**回答内容**

サツマイモの植付け前に、25倍～50倍に希釈した薬液を10a当たり100リッターの割合で作条に散布し、土壤混和します。土壤中の有機物に吸着され、長期間効果を発揮します。製品は2リッター包装で、10a当たり2～4リッター必要です。価格は2リッターで約7,200円ほどです。クロピク剤・D-D剤との併用ができますので、慣行の防除体系でも使用できます。

本剤はBT剤ですので有機JAS法でも使用が認められています。(T・N)

**知って得する防除の仕方**

## **散布薬量はどれくらいが適量か？**

作物に散布する際に必要とする薬液は、どの位が良いかとの相談が多くあります。

従来の農薬は希釈倍数が登録されていますが、登録通り使用しても散布液量が異なれば効果・経済性・安全性(残留量・薬害)が変わってきます。その為、最近の登録農薬は散布液量も登録の条件にされています。

しかし、例えば「ダントツ水溶剤」イネの散布液量は60～150リッターです。この

巾の中で適正な散布液量を決めるのは大変です。

散布液量を決める条件には作物の種類や生育ステージ・病害虫の発生量や発生部位・薬剤の特長・散布器具やノズル等があります。有効な防除効果を得るにはこれらの条件を総合的に判断することが必要です。(NT)



**VOL.1 誰にでもできる楽しい野菜作り****春植え果菜の定植シーズンです。  
どのようなことに気を付けたら良いでしょう？**

【質問】春植え果菜の定植シーズンです  
「どのようなことに気を付けたら良いでしょう」

**1、購入苗の苗選び**

自分で育苗されるプロの方も多いと思いますが、今日は購入苗の良否の見分け方からお話ししましょう。春植えの苗はプラグ苗・セル成形苗のような小型の苗よりは、10cm以上の鉢に鉢上げしてある大苗のほうが春は育て易いし、開花結実までも早いものです。ではどんな苗が良い苗なのでしょう？

**2、作目の種類では**

どのような苗でも徒長してなくガッチリ育っており、葉色は濃過ぎず、均整の取れた苗を選びましょう。植えてある鉢はあまり小さいのは根がすっかり鉢の周辺に回っていて活着がよくありません。

- ・トマト：第1花房の1番花が開花を始めている程度の苗がもっとも適しています。
- ・キュウリ・メロンなどの瓜類：本葉が2～3枚程度の病斑、虫害がなく節間がやや詰まって徒長していないもの。
- ・ナス：できたら大鉢に植えられていて1番花のつぼみのはっきりわかるもの。
- ・ピーマン：中小型の苗でも比較的早く開花するものです。白い花が咲いている株で徒長していないものを選びましょう。
- ・接木苗は高価だが？：毎年土壌伝染性の病害で生育途中で枯れてしまうような畑では特にキュウリ・トマト・ナスでは接木苗を選びましょう。接木苗でも台木の種類ではトマトの青枯病、ナスの半身萎凋病を防ぎきれないことがあります。園芸店によく相談しましょう。

**3、苗を畑に植える**

苗植えは地温の暖まっている日に行いましょう。果菜類の根がよく活着するかどうかは、土壌水分だけではありません。土壌の温度（地温）が大きく影響します。最近気象変動が甚だしく、暑い夏のような日がきたと思えばまた寒さがぶり返してきます。暖かい日が2～3日続くような日の前に植えられれば、その後多少寒い日が来ても大きな障害はでないものです。

**4、植える順序を考えましょう**

普通植える果菜類のうち、一番低温に強いのはトマトです。同じナス科でも最も寒さに弱く高温を要求されるのはナスです。トマト→カボチャ→キュウリ→スイカ→メロン→ピーマン→ナスが大体の定植し易い順番です。トマトでは地中10cmの地温が10

～12℃程度であれば植えられます。ところがナスでは15℃以上なければ活着しないだけでなく、後に地温が上昇してきても根の伸長が鈍く、旺盛な生育をしないことがあります。またオクラとモロヘイヤは特に早植は禁物で、地温が20℃程度にならないと思うように活着しません。

### 5、露地・施設トマトの具体例

5月定植8月まで収穫する「桃太郎」のような元肥施肥に敏感な品種もあるので、初期肥効を抑えて常にマイルドに持続性のある施肥効果が望ましい。土壌EC=0.15以下で7段階摘心。肥料は、「EX スミカエース」105kg（7袋）＋「スミカユーキペレット 777」200kg（10袋）＝N成分量約30kg/10a 有機は100%の有機配合またはカリ以外の100%有機配合でも可です。

（I－農力掲載の肥料部資料より）

## 害虫発生情報

4月に各県から出された病害虫注意報・特殊報から、主要なものをお知らせします。

### トマト 灰色かび病・葉かび病：神奈川県

いずれも多湿条件で発生しやすいので、ハウス内の通風換気に努めてください。両病害の同時防除剤としては、ゲッター水和剤、ベンレート水和剤があります。

### りんご モニリア病：青森県

排水に努め地表面の乾燥に努めてください。剪定枝の整理などの作業を速やかに行い、薬剤散布が順調に行えるようにしてください。そして、「芽出し当時」（発芽8～9割）と「芽出し10日後」に地区の防除暦に従って薬剤防除を実施してください。



### 温州みかん・中晩柑類 ミカンハダニ：宮崎県

冬期にマシン油を散布していない園での発生が多いので、このような園では注意が必要です。防除薬剤としては、ビルク水和剤、ロディー乳剤などがあります。ダニ剤はできるだけ同一剤の使用を避けるのがポイントです。

### 茶 クワシロカイガラムシ：宮崎県

防除は、ふ化最盛期に行ってください。日が経過するにつれロウ物質で体を覆うので、薬剤が効きにくくなります。防除適期は第1世代では幼虫初発の2週間後、第2～3世代では幼虫初発の1週間後となります。防除薬剤としては、スミロディー乳剤があります。

### きく・さつまいも アワダチソウグンバイ：滋賀県

登録薬剤はありません。圃場周辺の発生源となるキク科雑草（セイウアワダチソウ、ブクサ等）の除草を行ってください。

### かんきつ「不知火」 ウスコカクモンハマキ：鹿児島県

新梢伸長期にハマキムシ類に登録のあるダイアジノン水和剤、DDVP乳剤75などを散布し、若葉の食害と果実への食入を防ぐことが必要です。



## 登録情報

▽以下の剤が適用拡大されました。

◎武田パスポートフロアブル（4月6日付）

★おうとう：せん孔病、炭疽病／1000倍／収穫後から落葉前まで／2回以内／散布

◎武田ハービー液剤（4月6日付）

★豆類（種実、ただし、らっかせいを除く）の使用時期変更：

収穫50日前→収穫7日前

◎プレオフロアブル（4月27日付）

★作物追加：きく／オオタバコガ

★適用害虫追加：はくさい／アオムシ、オオタバコガ、だいこん／アオムシ、トマト／ハスモンヨトウ、ピーマン／ミナミキイロアザミウマ

◎ダントツ水溶剤（4月27日付）

★使用液量追加（高濃度少量散布）

稲：ウンカ類、カメムシ類／1000倍／25L/10a／14日前／3回／散布

◎武田ダコニール 1000（4月27日付）

★使用方法追加

にんじん／黒葉枯病／12倍(乾燥種子 1kg 当り希釈液 60ml)／は種前／1回／吹き付け処理（種子消毒機使用）

◎武田オルトラン水和剤（4月27日付）

★いちじく：アザミウマ類／2000倍／収穫45日前／1回／散布

▽以下の剤は適用が削除されました。

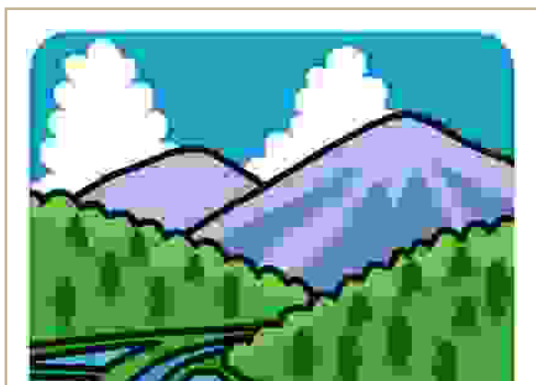
◎ジメトエート乳剤（4月27日付）

★作物削除：稲、れんこん

◎ジメトエート粒剤（4月27日付）

★作物削除：稲

(I・T、S・H)





**コラム・そば談義**

そば屋さん廻りしていると、個性溢れる店主がいて大変おもしろい。

今回も、そんな店を紹介したい。そこは、西武国分寺線恋ヶ窪駅近くにある『きぬたや』さんである。地図を片手に探して、声を掛けると中から温厚な感じの店主が現われ、「予約は？」と尋ねられた。「いいえ」と答えると、「これからはお願いします」と云いながら椅子に案内された。

座って暫くすると二種類（田舎と更科）の茹で立ての蕎麦が順次出され、一本残さず味わって食べた。それから、蕎麦湯を飲みながら店主との会話で、なぜ予約なのかが判った。

それは、まず事前に蕎麦の好みをお客さんから情報を仕入れ、予約日時から逆算して段取りをするのである。そして、予約し

た客が席に着くと、俗に三たて（挽きたて、打ちたて、湯でたて）と呼ばれる蕎麦をスーッと出せるように努力されているのである。

要は、お客様一人一人にオーダーメイドの蕎麦を提供しているのである。それを知ったとき、こんなすごいそば屋があるのかと驚嘆してしまった。

そこで我が相談室も、お問合せ頂いたお客様にオーダーメイドの応対が出来ないものかと考えてみた。それが出来れば、信頼関係がより一層深まるに違いないと思うのだが、いざ実行となるとその大変さに気が萎える。しかし、躊躇していても先には進まない。まずは「きぬたや」の店主を見習って、一步を踏み出そうかと考えている。

(F・N)

**[編集後記]**

天候に恵まれた大型連休もやっと（アツと？）終わり、いつも通りの生活が始まりました。

さて、連休に田植えをされた方が多いと思いますが、「正直やれやれ」というところでしょうか。しかし、日本列島は南北に長いので、これから田植えするところも多く、来月一杯まで続くことでしょう。ぜひその間、事故がないよう安全第一でお願いいたします。

ところで、連休中のお問い合わせ件数は、農作業が忙しいためか、幾分少なかったような気がします。ただし、相談内容に変化がみられ、種籾消毒剤から箱処理剤、そして水稲除草剤の問合せに換わりつつあります。

私事で恐縮ですが、高齢になる両親がいる四国へ偶には帰り、田植えでも手伝って来ようかと思っています。

表紙の挿絵「ヤマブキとスズメ」 技術顧問 富樫氏作